

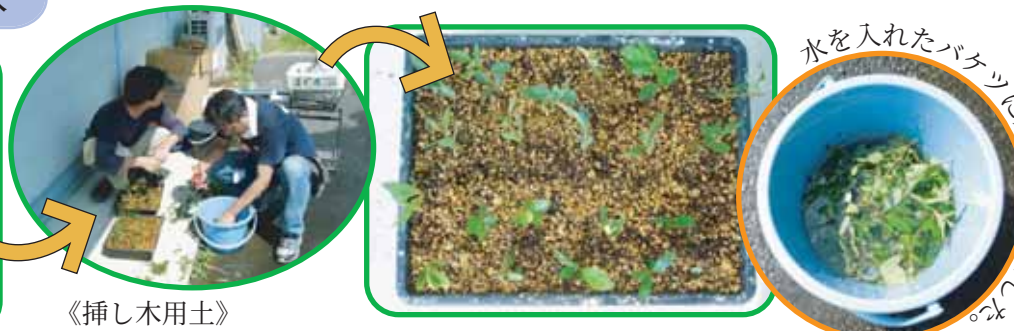
◇ グループ活動

グループごとにフィールドワークを中心に活動しました。毎日暑い日が続く、作業する場所はどこも草が生い茂っていました。

★植物グループ

ミツバツツジの挿し木

ミツバツツジの挿し木に使う枝を緑地内で採取しました。発根させるために鹿沼土とピートモスの混合土をつくり、40本挿し木しました。



《挿し木用土》
通気性がよく保水力があること、かつ排水が良いこと。
またツツジは酸性の土を好みます。

テイカカズラの誘引

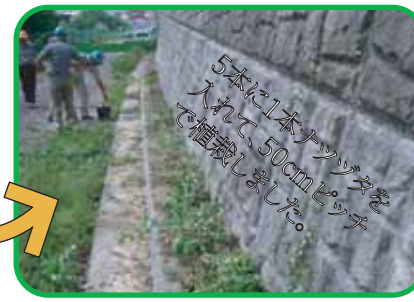
切土擁壁部の植生回復として植栽したテイカカズラをテープで壁面に仮止めし、壁面を登りやすくしました。



★1

テイカカズラ・ナツツタの植栽

シェルター構造西側の切土法面の植生回復として、テイカカズラ、ナツツタを合わせて15本程度、植栽しました。



★2

次回は、ナツツタ・テイカカズラの苗作りとマツの種子採取を予定しています。

- №10. 動植物の生態系に影響が及ぶ懸念があることから、水場や給水設備の設置すること
- №12. 初春（3月）の生物調査を実施すること
- №17. コリドーの作成、エッジの影響を低減するなどにより生態系面積縮小の影響を減少させること
- №18. 道路周辺まで植樹して緑地の連続性を保つ工夫をすること

★動物グループ

タヌキ調査の方法について

タヌキの生態をより詳細に調査するために、発信機を用いた調査を検討しましたが、技術的



法的な問題、電池の寿命、機器の重さなど…
タヌキに取り付けるにはまだまだ問題が多いね。

現時点で可能な方法だと、技術的にとても難しく、熟練が必要らしい…。

センサーカメラ設置

★3

エコトンネルの利用状況をより明確に把握するため、センサーカメラの設置方法を工夫しました。



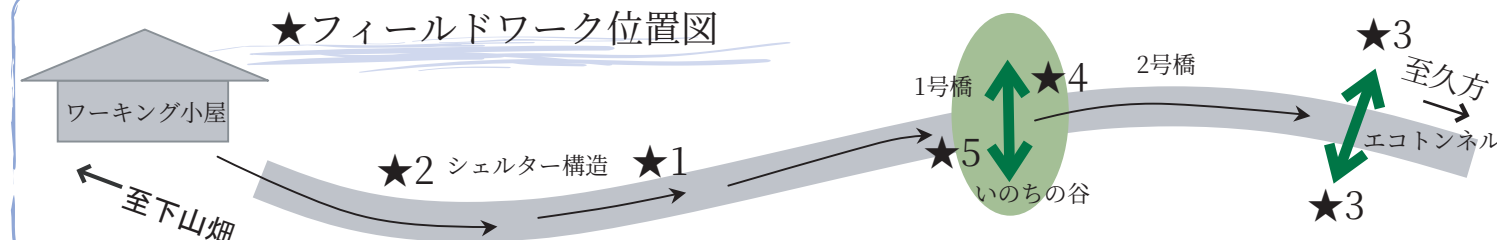
エコトンネルの中を上手く撮影できるといいね。



次回は、エコトンネル北側から森へのルート確保について検討します。

- №10. 動植物の生態系に影響が及ぶ懸念があることから、水場や給水設備の設置すること
- №12. 初春（3月）の生物調査を実施すること
- №14. ヒメボタルのライフサイクルの解明、保護方策を検討すること
- №16. ヒメボタル以外の生物種の保全とのバランスを注意深く検討すること

★フィールドワーク位置図



★施工グループ 簡易ダムづくり ★4

昨年つくったいのちの谷付近の簡易ダムを補強しました。緑地内の竹を切り出して、簡易ダムの大きさに合わせて竹を割き、補強を行いました。竹を運んで組み立てます。



緑地内の竹を切り出します。



適切な大きさに裂きます。



補強前



次回は、湧水調査地点の三角堰の取替えを行います。

- №5. 地質の観察ポイントとして、八事層を自然誌教育に活用すること
- №6. 継続したモニタリング（地下水位、湧水量、土壌水分量、動植物の動態）を実施すること
- №15. ヒメボタルへの影響を低減させるために、照明の工夫、夜間の通行止めを行うこと
- №21. 防犯上の十分な照度と、ヒメボタルの生息環境の負荷低減を両立させること

★交通グループ いのちの谷付近の散策ルート検討 ★5

現在は踏み固められて乾燥している水みちを、かつての潤いのある水みちとして守っていくために、いのちの谷付近の散策ルートについて検討してきました。前回決定した散策ルートの変更位置を現地で確認し、木杭を設置しました。木杭の範囲の草刈をして地形の状況を確認し、散策路の構造について話し合いました。



こちらから草刈からスタート



木杭設置

維持管理の担当者も一緒に話し合っ、次回までに必要な作業を進めてもらいます。

利用者が安全に散策できる構造を考えます。

次回は、維持管理工事の中で行われた整地、階段、土留め等を確認し、案内看板を設置します。

- №7. 相生山緑地へのアクセス機能を向上させること
- №8. ホタル観賞のために、駐車スペースの確保、観賞者に対するマナー指導、周辺住民の理解促進を図ること
- №23. シミュレーション予測による大気汚染、騒音、振動の評価を実施すること

次回から、グループ毎に学術検証委員会の課題について話し合います。○の中に記載しているのは、各グループの担当する課題です。